熊本

隊員の家族を訓練見学に招待
家族が見守る中での成長と誇り

熊本地方協力本部は5月26日、陸上自衛隊黒石原演習場（熊本県合志市）で実施された第5地対艦ミサイル連隊総合訓練に新隊員のご家族18人を招待し、見学を行いました。

数日前から雨の予報が出ていましたが、見学当日は晴れのち曇りで、心配されていた雨も降らず、絶好の見学日和となりました。

出発前、ご家族からは「小さい頃、いつもおんぶしていた孫を見るのが楽しみ」「みんな同じ格好をしているから自分の子供が分かるかな？」と楽しげな会話が聞こえてきました。

見学は教育隊長の中辻2等陸佐から、新隊員教育の流れについての説明から始まりました。「わが子のように深い愛情を込めて教育しています。成長した彼らの横顔をぜひ見ていってください」とのあいさつもありました。

見学時の訓練は25km行軍で、新隊員たちは3日分の荷嵩えなどが入った背のうを背負い、小銃を抱えて演習場内を行進していました。

ご家族は隊列が見えてくるとカメラを構え、自衛官としてのわが子や孫の姿を熱心に写真に収めていました。

大休止に入り、ご家族が新隊員に声をかけると、訓練中は険しい表情だった新隊員も緊張がほどけ、少し照れくさそうな表情を見せていました。

ご家族からは「3カ月前までは高校生だった子供たちが、新しい環境や訓練を経て、立派に成長している姿に感動しました」「幼い頃はいつも自分から離れなかった孫が立派に成長していて、涙が出そうです」といった感動の声が聞かれました。

訓練中の新隊員との記念撮影

新潟

音楽の力でつながる地域と自衛隊
陸自第12音楽隊と高校生の感動共演

新潟地方協力本部は5月19日、燕三条地場産業振興センターで開催された、三条市自衛隊家族会主催の陸上自衛隊第12音楽隊（隊長・富田淳子1等陸尉）による音楽演奏会を支援しました。

演奏会はオープニング曲「マーチエイプリルメイ」から始まり、吹奏楽のオリジナル曲やテレビでおなじみのポップスなど、幅広い年代が楽しめる曲が演奏されました。音楽隊の力強くも繊細な演奏は、観客を魅了しました。

特に、日本文理高校吹奏楽部との合同で演奏する場面では、観客全体が一体となり、躍動感あふれる手拍子が会場に響き渡りました。演奏が終わると、観客からの鳴りやまない拍手とアンコールの声に応えて「エル・クンバンチェロ」が演奏され、観客からは惜しみない万雷の拍手が送られました。

観客からは「初めて来ましたが、素晴らしい演奏に感動しました。また聴きに来たいです」「知っている曲も多く、とても楽しめました」との声が聞かれました。日本文理高校吹奏楽部の部員からは「もっと練習して、あんな風に上手く吹けるようになりたいです」「将来音楽隊に入って、また一緒に演奏したいです」といった夢が語られました。

また、会場の駐車場では、新潟県自衛隊援護協力企業である「マルソー株式会社」の企画により実現した自衛官募集広告デザイントラックが展示され、自衛隊のPRも行われました。

自衛官募集広告デザイントラックの展示

栃木

シルバー大学校学生、宇都宮駐屯地を見学
自衛隊の歴史と活動を学ぶ貴重な体験

栃木地方協力本部真岡募集案内所は5月14日、「栃木県シルバー大学校」の学生17人を対象に陸上自衛隊宇都宮駐屯地の見学支援を行いました。

栃木県シルバー大学校は、高齢者が豊かな知識や教養を学び、地域社会の活性化を促すための人材を育成することを目的とした、60歳以上の方々が在籍する学校です。今回の見学は、同大学校に在籍する自衛隊家族会の会員が立案し、実施について真岡募集案内所に相談したことから始まりました。真岡募集案内所が宇都宮駐屯地との調整を行い、見学が実現しました。

当日は、宇都宮駐屯地の広報担当者から駐屯地の概要説明を受け、防衛資料館を見学しました。防衛資料館の案内は、同大学校の卒業生で自衛隊OBの方が特別講師として担当しました。

学生の多くは、駐屯地内を見学するのが初めてで、自衛隊の活動内容や駐屯地の歴史、日々の訓練について真剣に聞き入っていました。

学生からは「歴史的価値のある数多くの資料を拝見し、地元の駐屯地の成り立ちや自衛隊の活動内容を学ぶことができました」との感想が聞かれました。

また、昼食の体験喫食では「栄養バランスもしっかり考えられて、とても美味しい昼食ですね」と自衛隊メシを楽しんでいました。

シルバー大学校の学生

岩手

海上自衛官から即応予備自衛官への新たな挑戦

岩手地方協力本部　即応予備1等陸曹　菅野祐二

私は4月13日に開催された陸上自衛隊八戸駐屯地の創立68周年記念行事に、第38普通科連隊第3中隊の一員として参加しました。

中隊長は使命感と責任感の向上を目的に、即応予備自衛官招集訓練の一環として、私を記念行事に参加させることを決めたとのことでした。

海上自衛隊を依頼退職後、動き、その技術が身体に染み付いていることに感心しました。

観閲行進では、高機動車の助手席に車長として乗車し、行進中に駐屯地司令へ挙手の敬礼を行いました。

沿道には手を振ってくれる来場者や笑顔で敬礼する子供たちが見え「常備自衛官も即応予備自衛官も同じ自衛官として見られている」と感じ、その想いに応えるために敬礼を返しました。

私は年間30日の即応予備自衛官招集訓練について「招集命令が出た際に常備自衛官として国防や災害派遣に従事するための訓練で引き続き精進してまいります。

海自隊員時の筆者

長野

陸上自衛隊新隊員が母校を訪問
感謝と成長の報告で後輩たちに希望を与える

長野地方協力本部茅野地域事務所は5月2日、長野県岡谷工業高等学校で、令和5年度に陸上自衛隊に入隊した2人の隊員による母校訪問を行いました。

訪問した隊員たちは、当時の進路指導主事に高校時代にお世話になったことへの感謝を伝えました。

また6年度に自衛隊受験を志望する3年生2人にも、陸上自衛隊の教育隊での訓練内容や生活環境についての近況を報告し、日々成長している実感や充実感を伝えました。

同行した広報官も、各種採用制度について教諭と受験希望者に改めて説明し、自衛隊への理解を深めるための情報提供を行いました。

訪問した隊員と再会した教諭は「一つ一つの動作や発言内容、受け答えの要領など、すべてが高校在学時から成長している」と感心しました。

後輩の2人は「たくましくなった先輩の話を聞いて、まだまだできるか不安でしたが、今回の式典に参加したことで、中隊長の思い通り「自衛官であるわれわれに対して敬意をもって見てくれている市民の期待に応えられるよう、日々の訓練にまい進しよう」ということを再認識でき、非常に良い経験となりました。

今年度で私は即応予備自衛官の継続任用の上限年齢に達し、退職となります。

海上自衛官から陸上自衛隊の即応予備自衛官となり、上限年齢まで務めることができたことを誇りに思います。即応予備自衛官を退職後も予備自衛官を志願し、今回の式典で感じたことを忘れずに「自衛官」として引き続き精進してまいります。

談笑する新隊員（右奥2人）

静岡

自衛隊、静岡ホビーショーで大人気
戦闘車展示や制服試着など多彩な広報活動

静岡地方協力本部は5月10日から12日の3日間、静岡市のツインメッセ静岡で開催された第62回静岡ホビーショーで広報活動を行いました。

このイベントは「模型の世界首都・静岡」で毎年開催される日本最大級の模型展示会で、国内外から多くのファンが訪れます。10日は県内の小・中・高校生が招待され、11日と12日は事前予約した一般来場者が朝早くから詰めかけました。

自衛隊は会場の屋外スペースと小展示場に広報ブースを設置しました。陸上自衛隊富士学校の16式機動戦闘車と大型トラック、陸上自衛隊第34普通科連隊の軽装甲機動車、高機動車、偵察用オートバイが会場正面で来場者を出迎え、多くの人が「本物だ」「かっこいい」と足を止めて見入っていました。

特に16式機動戦闘車の砲塔旋回展示では、車体を取り囲んだ来場者たちが力強いエンジン音や滑らかな砲塔の動きに驚きの声を上げ、展示終了後には隊員たちに温かな拍手が送られていました。

一方、小展示場の広報ブースでは静岡地本と海上自衛隊横須賀地方総監部が「触れて楽しんで知る自衛隊」の展示を実施。毎回人気の制服試着体験や南極の氷に触れる体験のほか、海自初となる潜水艦脱出用スーツの展示や迷彩柄で偽装された宿営用天幕の展示に、来場者は「すごい」と目を輝かせていました。

また、子供や大人が中に入って写真撮影ができるトリケルネット製ミニ10式戦車も人気を集め「作ってみたいのですが何でできているんですか」と、模型好きからの質問もありました。

自分も自衛隊を志す気持ちがさらに強くなった」と希望に満ちた目で語り、隊員たちや広報官にさまざまな質問をしていました。

訪問した隊員の一人は「先生に成長した姿を見せることができて良かった。次は、さらに進化した姿を見せて驚かせたい」と話し、今後のさらなる向上への意欲を示していました。

ミニ10式戦車で記念撮影

山口

地域とともに歩む自衛隊
ご当地ヒーローとコラボした募集広報ポスター

山口地方協力本部は、第4弾となるオリジナルポスターを作成し、採用広報活動を展開しています。

令和3年度から地域密着をコンセプトに作成しているポスターも、今回で4作目となりました。1作目には「長州五傑こと長州ファイブ」、2作目には宇部市出身の芸人「やす子」さん、3作目には岩国市のご当地ヒーロー「清流光神ハクジャオー」を起用し県民の興味を惹くものに仕上げてきました。

今年度は下関市のご当地ヒーローが登場します。その名は「海峡戦士タイガーフーク」。下関のトラフグの魂が宿った戦士で、子供たちに「命の大切さを伝える」キャラクターとして活躍しています。下関市を象徴する関門橋と巌流島の宮本武蔵と佐々木小次郎の像を背景に、今回のキャッチコピーはタイガーフークと自衛隊の共通点である「大切」「守る」を取り入れ「大切なものを守るため立ち上がれ」としました。

このご当地ヒーローとともに、自衛隊の認知度を向上させ、志願者の獲得につなげていきたいと考えています。

海峡戦士とのコラボ

佐賀

陸上自衛隊での隊内生活体験を支援
企業参加者が訓練に挑戦、協力と理解が深まる

佐賀地方協力本部は4月9日から11日の3日間（前段）および4月16日から18日（後段）の3日間、陸上自衛隊目達原駐屯地の支援を受け、隊内生活体験を行いました。

この生活体験は、自衛隊に対する理解と協力を促進するために行われ、一般企業を対象に自衛隊の駐屯地で数日間（通常は2から3日）を過ごし、訓練や駐屯地内での生活を体験するものです。

今回は前段・後段を合わせて、5社約80人の参加者が集まりました。

各企業は新入社員研修の一環として参加し、基本教練や防衛講話、ほふく前進、救急法、徒歩行進など、自衛隊独特の訓練に参加者たちは戸惑いながらも、声を掛け合いながら楽しそうに積極的に取り組んでいました。

参加者からは「規則正しく規律ある生活の中で団結力が向上するとともに、忍耐力の大切さを実感した」「生活体験を通じて隊員や他企業の方々と親睦を深めることができ、また自衛隊への理解も深まった」といった感想が寄せられ、生活体験の目的が達成できたことが分かりました。

徒歩行進に奮闘する参加者

京都

音楽隊が京都競馬場で広報活動
天皇賞（春）競走で華麗な演奏を披露

京都地方協力本部は4月28日、京都競馬場で開催されたG1レース「天皇賞（春）」競走において、海上自衛隊舞鶴音楽隊（隊長・野澤健二1等海尉）の協力を得て、ファンファーレおよび表彰式で生演奏を披露し、広報活動を行いました。

京都競馬場は令和7年に開設100周年を迎え、昨年4月のG1レース「天皇賞（春）」競走および10月の「菊花賞」で自衛隊が初めて演奏し、好評を博したことから、今回が3度目の出演となりました。

古馬最高の栄誉を懸けて争う「天皇賞（春）」競走」。競馬ファンで埋め尽くされた場内は、さわやかな白い制服に身を包んだ音楽隊の演奏に合わせて手拍子で盛り上がり、ファンファーレの華やかな響きとともに、大歓声が湧き起こりました。

レース後の表彰式では、音楽隊が国歌「君が代」および得意歌を演奏し、花を添えました。

また、各レースの合間にはターフビジョンや場内のモニターで、自衛官募集のPR動画などが放映されました。

華麗な演奏を披露する舞鶴音楽隊

神奈川

自衛隊の魅力と挑戦を伝える講演会
防大訓練部長が語る多様な経験と信頼の築き方

神奈川地方協力本部市ヶ尾募集案内所は4月23日、東洋英和女学院大学（横浜市）で国際社会学部の学生53人を対象に、防衛大学校訓練部長の東（あずま）昌子海将補による講演会を行いました。

講演会では、制服姿の東部長に学生たちから「わあ、かっこいい」と歓声が上がりました。

海上自衛隊の任務や活動について説明が行われた後、東部長の自衛隊生活についてヒストリー仕立ての振り返りがありました。

東部長は防衛大学校の女子1期生としてのスタートから、練習艦や護衛艦での艦艇勤務や海上幕僚監部での勤務といった多様な経験について語りました。

管理職として働き続ける中での厳しい時期や、実体験に基づく話、そして「言うだけでなく、実際に行動することを継続・実施することで信頼を得てきた」という力強い言葉に、学生たちはうなずきながら熱心にメモを取っていました。

講演終了後の質疑応答では「今までで一番大変な任務は何でしたか」など活発な質問が飛び交いました。

ある学生は「責任の重さは、やりがいと比例する」という言葉が印象的でした。

さまざまな経験をされてきたからこその言葉と感じ、感動しました」と感想を述べました。

国際社会学部の小久保康之教授は「貴重な体験談は学生たちの胸に刺さったと思います。同性からのお話だったので、学生の真剣さが違いました」と話していました。

また、当日は校内に自衛隊広報ブースを設け、広報官が学生たちに自衛隊の活動や入隊制度について説明を行う様子を星野三喜夫学長が視察し、広報官に激励の言葉をかけていただきました。

講演する東防大訓練部長

香川

中隊長等との援護会同を開催
再就職支援を強化するための連携会議

香川地方協力本部は5月29日、陸上自衛隊善通寺駐屯地で中隊長等との援護会同を行いました。この会同は香川地本援護課と中隊長等との連携を強化し、退職隊員の適職援護を実現するために行われたものです。

会同には、中隊長等26人、先任上級曹長23人、援護陸曹等20人、自衛隊援護協会進陪相談員が参加しました。

会議の冒頭に、香川地本の援護状況や援護組織の有用性について上田本部長から説明がありました。

援護センター長および援護班長からは、就職援護に関する制度説明、再就職の現状、再就職の流れ、各種課題の共有が行われ、中隊長等から提出された問題認識への回答も行われました。

その後、自衛隊援護協会進陪相談員からの連絡事項や予備自衛官等制度の説明が行われました。各説明や意見交換を通じて、中隊長等が行う就職指導の具体的なアドバイスが提供され、地方協力本部と部隊との連携強化が図られました。

中隊長等からは「援護の状況や中隊長等として注意すべき事項について理解できた」「退職予定隊員に対する就職援護の重要性や必要性を再認識することができた」「再就職に関する現状の問題などを認識することができ、成果があった」などの意見が寄せられ、就職指導の重要性を再認識する良い機会となりました。

進路指導員による説明

ひとりで悩まずご相談下さい！

自衛隊家族会は
★決して会員をひとりにはしません！
★いつもそばにおります！
★解決に向けてみんなで汗をかきます！

まずは、近くの家族会会員へ。
そして、お気軽に「問い合わせ窓口」へ。

1　「問い合わせ窓口」への問い合わせ先・要領

自衛隊家族会事務局（担当）　髙橋 隆志(たかはし たかし)
◇電 話 :03−5227−2468　（平日 09:00〜16:00）
◇メール :jkazokuka@jkazokukai.or.jp　（常時、ただし返信は平日）

「総括相談員」　鍛治 雅和(かじ まさかず)
◇番 号 :080−4630−8987　（平日 09:00〜16:00）

○ 問い合わせ者は、まず「氏名（匿名可）」「所属家族会（部隊等）」など述べた後に、必要な「問い合わせ」を実施して下さい。不在時には「相談員」から電話しますので、事前に「非通知設定」の解除をお願いします。
○ ご不明な点は、高橋までご連絡下さい。

2　問い合わせ　「相談員」

役 職・氏 名	担 当 内 容
家族会運営委員(陸自OB) 手塚 信一(てづか しんいち)	◇家族(隊員)に関する問い合わせ (主に陸上自衛隊)
家族会理事(海自OB) 鍛治 雅和	◇家族(隊員)に関する問い合わせ (主に海上自衛隊)
家族会理事(空自OB) 荒木 淳一(あらき じゅんいち)	◇家族(隊員)に関する問い合わせ (主に航空自衛隊)
家族会副会長(陸自OB) 宮下 寿広(みやした としひろ)	◇家族会全般に関する問い合わせ
家族会事務局員　髙橋 隆志	◇家族会の管理に関する問い合わせ

相談無料！　個人情報・秘密厳守！　問題解決実績多数！

定期購読のご案内

防衛省・自衛隊の様々なトピックスを満載した「朝雲」は、どなたでも購読できます。退官後も部隊や後輩の補職先、活躍ぶりが一目りょう然。お申し込みは下記へ。

税・送料込み　1年間契約 9,900円　半年間契約 5,500円

電話　03・3225・3841
FAX　03・3225・3831
朝雲新聞社
〒160−0002 東京都新宿区四谷坂町12−20KKビル

暑中お見舞い申し上げます

一般社団法人 日本郷友連盟

会長　森　勉
副会長　廣瀬清一
専務理事　越智通隆
常務理事　冨田　稔
理事　袴田忠夫
理事　佐藤誠喜

公益社団法人 隊友会

会長　折木良一
理事長　岩﨑　茂
常務理事　徳地秀士
常務理事　岩田清文
常務理事　山村　浩
事務局長　藤井貞文